

まちづくり市民会議（第 1 回）

■平成 26 年 7 月 26 日(土) 13:30～16:30

■恵那市文化センター

□参加者：62 名（男性 35 名/女性 27 名）

テーマ：住み続けることができるまちづくりのために

恵那市の将来を担う若い世代の市民の方々が、どういう町にしたいか（住みたいか）について考えておられるのかをお聴きして、第 2 次総合計画に反映します。

【内 容】

1.あいさつ

2. ワークショップ 第 1 部

テーマ：恵那市のいいところ(魅力・長所)・悪いところ(悩み・困りごと)

□日ごろ感じている恵那市の魅力・長所、住んでいるの悩み・困りごとについて意見交換。

3.恵那市の将来予測について

4.基調講演「近未来へ向けたまちづくりと暮らし」

（岐阜大学地域科学部教授 西村貢先生）

□恵那市の環境変化やまちづくりの方向について説明。

5.ワークショップ 第 2 部

テーマ：どういうまちにしたいか

□第 1 部で出た意見や、先生の講演を踏まえて、恵那市がどういうまちになったら住み続けることができるのか、どういうまちにしたいのかについて話し合う。

6.まとめ・閉会（岐阜大学地域科学部教授 西村貢先生）

■次回

日時：平成 26 年 9 月 21 日（日） 13:30～

場所：岩村コミュニティセンター

～10年後の恵那市の、その先に向けて～
まちづくり市民会議
ニュースレター 【vol.1】



発行日：平成26年8月6日

若者が未来の恵那市を考える「まちづくり市民会議」を開催！



2014年7月26日（土）

13：30～16：30

場所：恵那市文化センター

「第2次恵那市総合計画※」の策定にむけ、恵那市のこれからのまちづくりを担う20～40歳代の市民62名が集まり、今の恵那市の魅力や、いつまでも住み続けたいくなるような市の将来像について話し合いました。

当日のプログラム

- 13：30 あいさつ・趣旨説明
- 13：40 ワークショップ① 恵那市のいいところ・悪いところ
- 14：30 恵那市の将来予測（市説明）
- 14：35 基調講演「近未来へ向けたまちづくりと暮らし」
岐阜大学地域科学部教授 西村貢先生
- 15：00 ワークショップ② どういうまちにしたいか？
- 16：20 まとめ

※「総合計画」とは、市政を経営するにあたっての最上位の計画で、市が目指すまちの将来像を実現するための具体的な方法（施策）を示したものです。本市の現行計画は平成18～27年度（10年間）までとなっており、現在、第2次恵那市総合計画（平成28～37年度）の策定を進めています。

恵那市の魅力や問題点を出し合いました

AからGまで7つのグループに分かれ、グループワークを行いました。最初に全員の自己紹介を行い、恵那市の良いところ（魅力・長所）と悪いところ（悩み・短所）を3つずつ出し合いました。意見をテーマ別に整理しながら、市の強みや弱みについて話し合いました。

主な【良いところ】

- ・自然が豊か
- ・住みやすい
- ・住民が親切、絆が強い
- ・独自の歴史や文化がある
- ・名古屋への交通の便がよい
- ・豊かな食や農
- ・観光資源が抱負 など

主な【悪いところ】

- ・人間関係がわずらわしい
- ・移動手段が乏しい
- ・子どもの遊ぶ場所が少ない
- ・医療が不十分
- ・若い人の流出が多い
- ・子育て支援が弱い
- ・駅前が寂しい など

人口や財政などの将来予測と、今後のまちづくりについて話題提供

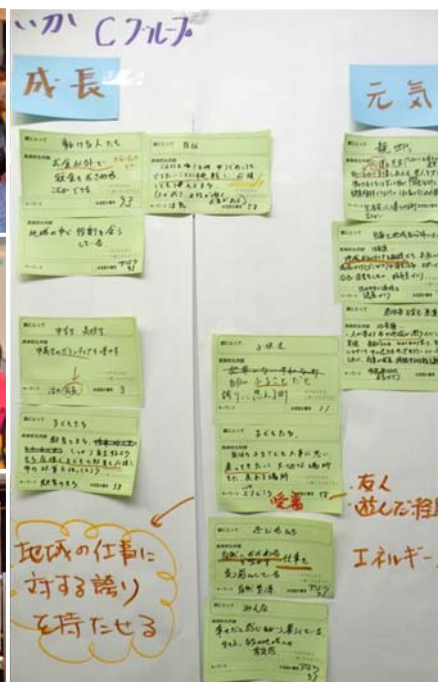
事務局から、近年の本市における人口流出・高齢化の状況と、今後さらに人口減少・高齢化の進展が予想されることについて報告しました。また、今のままの市民サービスを続けると、市の財政が非常に厳しくなることについて、データを使って説明しました。

さらに、「総合計画審議会※」の会長である岐阜大学地域科学部教授の西村貢先生に、「近未来へ向けたまちづくりと暮らし」というテーマで基調講演をして頂きました。今後は、厳しい財政状況の中で行政サービスの重点化・効率化が求められるとともに、住民・事業者・行政が連携し地域ぐるみでまちづくりに取り組んでいくことの重要性などについてのお話がありました。



※総合計画は、市長が「総合計画審議会」に意見を求め、審議会が案を作成して市長に返し、最終的に市長が決定します。総合計画審議会は、学識経験者・各種団体代表・公募等による市民で構成し、各分野における調査・研究・協議を行い、総合計画の案を作成します。

今後 めざすべき将来像～どういうまちにしたいか～



前半のグループワークや講演を踏まえ、今後も住み続けたいような恵那市の将来像について話し合いました。

子どもに関する意見（子育てや教育など）や、定住促進（雇用や住宅環境など）に関する意見などが多く聞かれました。また、いまある市の魅力的な資源や強みに磨きをかけ、歴史文化や交流を推進するアイデアなども出されました。

恵那市が住み続けられるようになるためには、子どもに地域への誇り・愛着を持ってもらうこと、それを大人が示していくことが大切であるといった「市（地域）への誇りや愛着」についての意見が多く聞かれたのが、とても印象的でした。

《次回》●日 時：平成 26 年 9 月 21 日（日）13：30～16：30 ●会 場：岩村コミュニティセンター
●テーマ（予定）：住み続けられるまちにするために、施策について分野別に検討

■問合せ：恵那市役所 総合政策課（担当：服藤・鈴木） TEL：0573-26-2111（内線 331）

第 1 回まちづくり市民会議【ワークショップ第 2 部：どういうまちにしたいか】

	A グループ	B グループ	C グループ	D グループ	E グループ	F グループ	G グループ
出産 子育て	・自然な出産・育児ができるよう、助産師さん・育児グループの充実。 ・出産。子育てにやさしい町。子どもに手厚いケア ・母子が幸せを実感できる町 ・「森の幼稚園」、「冒険遊び場」など、自然の中で子育てできる環境が確保されている。（やりますので！） ・自園調理の継続。とても良いことだと思うのでぜひ継続してほしい。子どもにとって「ふるさと」の思い出となる。	・近くで働けて、子育てしやすく、保育園から大学まで心配がない町。保育園→大学まで ・子育て世代が移住しやすいまち。田舎でのんびり子育てしたい人に来てもらえる、帰ってくるまち。子育てサービスを充実させる。 ・保育料を下げる。保育園、小学校の給食は自園調理する。 ・新しく子育てする人をサポートする。 ・子どもを産んで育てやすい地域になる。	・安全・安心な環境で子育てができる ・3 世代が安心して暮らせる	・子連れでも気軽に行くことができる、キッズスペースのある飲食店の推進 ・恵那市に移住した人が子育てしやすい環境の整備（学校建物を利用した学童、トワイライト、プール施設等の整備） ・イワクラ公園に小さな子どもが遊べる遊具を増やしてほしい（イワクラ公園に、新しく遊具を設置してくれたが小さな子供が遊べない） ・保育園の給食が自園式のまち	・医療が充実し、安心出産できる。移住者にとっても魅力になる。 ・安心して子育てできる施設、制度の充実 ・信頼できる保育園、充実した子育て支援。働きながら子育てできる環境 ・保育園の自園調理を続ける。自分たちで野菜を育てて調理し、みんなで食べる楽しさを子どもたちに教える。 ・子どもたちが自然の中で遊べる公園、水場、児童センターを整備。	・若い世代が子育てしやすいまち、仕事をもてるまち、生みやすいまち。産科、医療の充実。子どもが育てやすい、保育・教育の充実 ・子育て支援、福祉・医療の支援により、住民に負担を減らして恵那で子育てできる環境づくり ・定住して子育てができる、住む場所がある、住みたいと思えるまち	・子どもを安心して預けることができること ・育児休暇等が取りやすいこと
高齢者 福祉		・長く住んでいられるためには、介護の心配がなく、負担も少なく、安心して生活できる。 ・働く世代にとって、介護の負担が減る。みんなで支えられる。	・（再掲）3 世代が安心して暮らせる ・なるべくお金をかけずに介護ができる ・老人を体制に、町ぐるみで介護を応援 ・健康が維持できるように、体を動かすことができる施設、場所		・（高齢者）福祉、送迎サービスが充実 ・（高齢者）好きな時に買物や通院できる。	・（高齢者の生活支援）高齢者が自由に移動しやすいまち。移動支援など。地域に中小の店が残り、バスも走る。	・病院以外のところで、できるだけリハビリ施設が作れたら
障がい者 福祉							・（再掲）病院以外のところで、できるだけリハビリ施設が作れたら ・障がいを持っている人について、本当の意味でのバリアフリーが必要（見えていない壁を取り除く）
防犯 防災			・犯罪の無い平和なまち ・防犯灯が整備された明るいまち	・災害時や緊急時にすぐに駆けつけられるように、市内で働ける場所の確保			・安心・安全に登校ができて、安心・安全に遊べるような防犯力のあるまち ・外で伸び伸びと遊べるまち
食の 安全				・恵那市の安心な環境を活かして、安全な食、安心な水が確保されているまち（給食の安全化、地産地消化）			
医療	・医療を充実して、肝心な部分は医師に			・病院が存続して、安心して暮らせるまち	・（再掲）医療が充実し、安心出産できる。移住者にとっても魅力になる。	・（再掲）若い世代が子育てしやすいまち、仕事をもてるまち、生みやすいまち。産科、医療の充実。子どもが育てやすい、保育・教育の充実	
自然	・森林資源と水資源を生かしたエネルギーを活用。雇用創出 ・人工林の手入れを行い、いのち豊かな森づくり				・自然を生かした遊びの充実（クワガタを取る機会や川の中の生き物に触れる機会の充実） ・広葉樹などを植えて環境整備し、自然の魅力をアップ。 ・外の人に、移住して自然の中で暮らす楽しさを伝える。	・自然の中でいやされる場所を作り、健康増進ができる施設をつくる。	
快適さ 便利さ		・夫婦のんびり、車がなくても生活できる。田畑だけでも生活できるとよい。	・子ども達が不便を感じない ・子どもが大人になっても暮らせるまち（ショッピングの充実）	・瑞恵バイパス（東西）の整備、418 号線沿いの整備		・（憩いの場として）ユースホテルなどの再建のような自然を利用した施設をつくる。休日に遊ぶ場所、行く場所があるまち	・恵那中心部まで気軽に出かけることができるバスなどの充実したサービスが提供できるまち
健康 スポーツ			・（再掲）健康が維持できるように、体を動かすことができる施設、場所	・体力増進により、介護のない暮らし			・全国レベルのスポーツを身近に感じ、目標となる選手をたくさん輩出するまち
教育	・地域の力を活かし、IT も活かした公共教育、サテライト校づくり	・中学校を 1 校にするのは反対。伸び伸び育てたいので中規模校で。	・子どもが自立できるようにまち全体で子どもの教育を応援 ・中高生のボランティアへの参加を増やし、成長を促す	・小中学校の部活を活性化してほしい ・恵那市には魅力的な自然環境があり、それを活かせばまだまだ産業を活性化することができる。子どもの頃から自然環境にふれ、創造できる力を育んでほしい。自然環境を活かした将来の仕事が創造できるユニークな活動がある（キャンプ事業、山歩き事業など）		・自慢できる魅力を（「食育（自校・園で調理）」、「木育（森の幼稚園）」	・教育（公立校）のレベルを高くして、人気があるまちとなる。 ・親の世代が自分達の地域を知り尽くし、楽しむ方法を知る。これにより、子ども達の個性を伸ばし、強い子ども達を育てる。
企業 雇用 就業	・何かはじめたい人に金銭的な支援を ・（再掲）森林資源と水資源を生かしたエネルギーを活用。 ・現役世代の雇用創出 ・それぞれ身の丈に応じて、生計が成り立つ生業づくり	・インターネットやパソコンで仕事ができる企業を呼び込む。 ・自分たちの子どもにとって、生き生きと働けるようになるまち。（仕事先とやりがいがある。）	・自分の得意分野を生かしながら、働けるうちはずっと働くことができる仕組み ・主婦（女性）でもやりたいことに挑戦できる。それを応援する	・（再掲）災害時や緊急時にすぐに駆けつけられるように、市内で働ける場所の確保	・何かを始めようとする意欲のある人材を発掘して、様々な支援（専門家によるアドバイス、資金的支援、場所の提供、サポーターの紹介）を行い、夢が実現できるよう応援する。 ・子どもが 10 年後に、地元で働けることができるように。 ・企業が立地するには、大学・専門学校の誘致が必要。アルバイト人材が確保できるようになる。	・（再掲）若い世代が子育てしやすいまち、仕事をもてるまち、生みやすいまち。産科、医療の充実。子どもが育てやすい、保育・教育の充実 ・働く先の確保 【リニアの活用】 ・出ていくのみではなく、訪れてもらう。雇用の場づくりなど	・恵那から通える企業のキッズニアみたいなものを作り、仕事に興味を持ってもらう。 ・多くの就職先がある地域にする。 ・トヨタなどの自動車産業を誘致 ・恵那が衰退しないように産業（大工場）を誘致して、高給を得ることができるように ・労働人口不足の日本で特異な存在になる、子だくさんの地域、若者夫婦が集まる地域
農林 商工業	・農地、山を守るために働く場をつくる（農業・林業）			・10～20 代の若者が遊べる娯楽施設の誘致、プール、スポーツ等の建設 ・空き店舗に新たな事業者を誘致し、人が歩いているまちづくり	・農業の新しい形を創る。女性ができる、おしゃれにできる農業。 ・一般の人が農業を始めるための研修プログラムを用意。 ・恵那市の特産品（ブランド米）を市全体で立ち上げる。	・新規就農者が農地を借りやすく、その単身者が住宅（市営住宅、他ワンルームアパート）を確保できる。 ・自然があり、農業ができるまち。	

	A グループ	B グループ	C グループ	D グループ	E グループ	F グループ	G グループ
地域資源 観光 ブランド	・恵那市を宣伝して知名度を高める。魅力あるまちに ・あるものを活かす。たとえば、産直所を作る。	・農業・産業・商業がつながりを持って恵那ブランドをつくり、地域外でも販売できる商品をつくる。		・恵那峡や笠置クライミング、上矢作アウトドア、温泉郷、オートキャンプ場の整備など、食べ物などを活かした観光地としての魅力アップ、リピートしやすい観光まちづくり ・鞍ヶ池公園のような、ゆっくり過ごせる大きな公園でアスレチックや体を動かして遊べるまち。滞在時間の延長にもつなげられる		・交流人口をふやす。企業誘致、施設の誘致 ・自然、山、川等に手を入れて、荒れた所を整備し見所を増やす。	
地域 コミュニ ティ	・地域の中で、地域の力で子どもが育つ学校づくり、保育園 ・若い世代の意欲やアイデアが形になりやすいまち・一人ひとりの職員と、一人ひとりの市民が持てる能力と思いを発揮し、補完し合って地域づくり ・若い世代を中心に担わせる地域づくりを ・シニアを支え合うことができる関係を築くことができる機会づくり ・使用頻度の少ない施設の活用促進。学生ボランティアを活用した地域活性化、大学との連携、保育・子育てに活用	・地域のコミュニティ、学校の存続、学校がなくなるとさびれる。少人数になっても統合するのではなく、地域で人を呼び込む。 ・市民一人ひとりの得意分野を活かして地域課題を解決する。 ・お年寄りから子どもまで集まってにぎわえる公園や施設。お年寄りに子どもの面倒も見てもらえる。	・（再掲）主婦（女性）でもやりたいことに挑戦できる。それを応援する ・困った時に助け合う関係 ・一人暮らしの高齢者の安全確認 ・人が集まり、地域が潤うイベントの企画。みのじみのり祭り、市民マラソン、中山みちウォーキングをイベントの柱として、商業の発展と持続させるための組織づくり ・お金以外で税金を納めることができる仕組み。社会貢献活動に対する評価の仕組み ・地域のボランティア活動の組織をつくり、多くの意図が気軽に参加でき環境づくり ・地域には多くの活動団体・グループがあるがそこにどう参加してもらうか・ ・地域で役割を果たすことができる。		・地域の役を強用されて仕事ができずに住めなくなる。働く、若い人のことを考えた仕組みが必要 ・住民同士のコミュニケーションが活発で、何でも話せる関係をつくる。それにより、自分達で物事を決め、自ら行動できるようになる。		
交流	・海外からのボランティアが、住民1人に対して最も多い市を目指す。 ・労働のサポート、人材育成、施設の活用につなげる。			・恵南地域と恵那西地域の情報が行き交うまち（恵南地域・恵那西地域の交流ができるようになってきた。子ども達の頃には、もっと交流できるようになっているとよい。） ・恵那市全体で交流ができるまち ・中津川、瑞浪、豊田市等と交流して、恵那の活力を高める	・子どもから大人まで参加できるイベントを年に何回か開催して、活気のあるまちに。 ・多くの住民が参加・交流することで恵那市全体の活気を高める。 ・（国際交流）外国語の習得、お互いの文化を分かち合う子ども達が世界を知ることにより、自分たちの生活を見つめ直す機会となる。		
愛着 誇り 定住	・素敵だと思えば、みんなが恵那に残り、暮らしていける。	・自分の住んでいる所のよさをたくさん知り、住み続けられるようにみんなで力をあわせる。アピールする。 ・親が生活を楽しんでいるまち。	・子どもが自分の故郷だと誇りに思えるまち ・自分のふるさとと大事の思い、戻ってきたい、戻れる場所 ・地域で遊んだ経験や友人関係が、地域への愛着を育む ・地域にある仕事に誇りを持たせる、大企業に就職することが全てではないという価値観を育む ・自然に関わる・生かす仕事に意味を感じる：エネルギー、食糧問題 ・地域での自分の生き方や地域を肯定する ・今を幸せだと感じながら暮らすこと	・子どもが10年後も恵那市に残ってくれるまちづくり	・子どもが住み続けたいと思うまち。郷土愛を育む。 ・人口減少を食い止めるため、道路二車線化。道路整備。交通の便を良くする。	・大人が子どもに自信を持って「恵那は良いぞ」と言えることが大切。・大人の意識改革（愚痴を言わない） ・小中学校のうちから、人のつながりを大切に。行事などにより、郷土への愛着を育む。 ・自然・環境を活用して、教育、医療、仕事、働きやすいこと ・恵那から通い、夜は恵那で過ごしたくなるまち ・名古屋までは通勤できるが、岐阜市、恵南地域との交流・接点が少ない。働く場の開拓があまりない。 ・豊かな自然、食を大切に、安心できる農産物、教育医療の充実 ・学校の環境の向上、職場の確保	・大人になっても住み続けたいと思うまちづくり。働き口、利便性、安心・安全 ・地元に戻ってきたい若者、外部から恵那に住みたい若者、地元で結婚後もそのまま住みたい若者のための対策 ・アパート、市営住宅（今のライフスタイルに合ったもの）を作る。 ・宅地を官民協力して供給する。 ・保育園を無料にして、子育てを（3人、5人兄弟ができるように人数が多くて）楽にする。
移住	・移住を希望する独身者、子育て世代が、農業・林業などで小さな稼ぎにつながる副業がたくさんある。 ・（移住希望者）人・モノ・コトが結び合いつながる情報発信を	・空き家の整備をしてもらう。市から援助をしてもらう。 ・極端なところを言えば、市民サービスを何でも無料化するなど、市の売りを作って移住を促進する。		・空き家対策、企業誘致により、人口が増え、学校や店がにぎわっている ・笠置町、宅地造成し、人口を増え、子どもが増える ・田舎で暮らしたいと思っている他市町の子育て世代の人、恵那で生活するイメージを持って移住しやすいまち ・移住した地域で新しい発想でのまちづくりができるまち	・（再掲）医療が充実し、安心出産できる。移住者にとっても魅力になる。	・インターネットによる恵那の良さ、情報の発信強化【リニアの活用】 ・「いつでも都会に行ける」気楽さで、恵那に定住する人を ・「循環型の生活ができる」、「安心して子育てができる」と都会へPR、イメージを発信	
行政		・若い世代の人の声が市に通る。限られたお金をどこに使うか、市民の意見を取り入れる。		・市のお金の使い方の話し合いをオープン化。 ・中途半端な政策がはっきりと進んでわかりやすい（→現在では政策が中途半端のままで終わってしまい、市民には結果がどうなったのかが不明瞭。政策の進行課程や、結果を明確にして進められる） ・税金を払っている若い世代が、意見を言える場を設け、若い世代の意見がきちんと反映されている ・施策が高齢者に偏っている。高齢者と若い世代が共存できるまち		・行政は市民の意見を聞く体制づくりを	